

診療看護師 (NP), 医師, 看護部長, 看護師の視点からみた 高度急性期病院におけるNPの役割と活動に関する考察

The considerations of the roles and activities of Nurse Practitioners (NP) in hospitals in Japan from the viewpoint of NPs, doctors, nursing directors and nurses

宇田川 美紀¹⁾・草間 朋子²⁾・別所 遊子²⁾

1) 北里大学病院 看護部 2) 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部

要 旨

【目的】

高度急性期病院における診療看護師 (NP) の活動・役割をNP, 医師, 看護部長, 看護師への半構成的インタビュー調査により明らかにする。

【方法】

全国6カ所の病院のNP, 医師, 看護部長, 看護師各5名に半構成的インタビューを行った。インタビュー内容から逐語録を作成し, コードを抽出し, 質的帰納的に分析した。

【結果】

NPは, 【患者へのタイムリーな医療の提供】をし, 医療スタッフの教育者および相談者として活動していた。NPはチーム医療のコーディネータとしての役割を果たしていると認識していた。

医師は, NPを【医師のパートナー】として評価していた。また, 医師は【NPの実践力の向上】, 【NPとしてのアイデンティティの確立】の必要性を指摘した。

看護部長は, 【医師との協働による医療の質の向上】に貢献していると評価していた。また, NPが看護師に質の高い教育をし, 組織内で【自律的な役割発揮】をしていく必要性を指摘した。

看護師は, NPは医師と看護師の視点で実践していると認識していた。また, 看護師の何でも話せる【身近な相談者】と捉えていた。

【結論】

各医療スタッフは, NPが病院でのチーム医療の推進に寄与することを期待していた。患者のQOLの向上のために, 自律した実践および組織内におけるNPの役割と立場を明確にしていく必要がある。

Key Words : 診療看護師 (NP), 役割と活動, 期待

I. 緒言

医療技術の高度化・複雑化により, 高度急性期機能棟を持つ病院¹⁾ (以下, 高度急性期病院) には, 複数の疾患を持つ患者や複雑な病態を呈する入院患者が増加しており²⁾, より高いレベルの診察行為の提供や患者の個

別性を重視した医療が求められている³⁾。一方, 医師の専門分化が進み, 高度急性期病院では医師の「過度な専門医志向」も指摘されている⁴⁾。診療看護師 (Nurse Practitioner; 以下, NP) は, 看護師としての業務を自律的に遂行し, 患者の「症状マネジメント」を効果的, 効率的, タイムリーに実施する役割を果たすこと

で、重症化等を防止し、患者および患者家族のQOLの向上を図ることができるとされている⁵⁾。専門化された多職種によるチームで診療が進められる高度急性期病院において、NPが患者の視点に立って活動し、チーム医療のキーパーソン⁶⁾として効果的・効率的なチーム医療を進めていくことにより、患者・患者家族にとって満足度の高い医療を提供できると考える。

NPの役割・働き方は、それぞれが所属している組織（病院）が掲げる目標やニーズによって異なるが、NPの組織内の位置づけを明確にし、大学院修士課程での教育を通して習得した能力を効果的に活用できる就労環境、組織体制の構築が課題とされている⁷⁾。これまで、NPの視点からの活動報告⁸⁾や、NPの役割と成果⁹⁾についての報告はあるが、チーム医療のパートナーである医師や看護管理者、看護師からのNPの活動の評価や期待に関する報告は限られている。

そこで、今回、高度急性期病院に勤務しているNPの活動に対するNP自身の評価（自己評価）および医師や看護部長、同僚看護師の視点からみたNPの活動成果と期待を明らかにし、日本における今後のNPの活動の方向性の検討に向けての情報収集を目的として、インタビュー調査を行った。

II. 研究方法

1. 研究対象者

高度急性期病院に勤務しているNP、NPの研修に携わった医師または現在NPと協働している医師、看護部長および現在NPと協働している看護師をインタビューの対象とした。NPが先駆的な活動を行っている高度急性期病院を学会や看護雑誌、学会誌、病院のホームページ等で検索し、選定した病院の看護部長および施設長に本研究の主旨、概要を文書で説明し、本研究対象となるNP、医師、看護師の選定を依頼した。研究協力の同意が得られたNP、医師、看護部長および看護師をインタビューの対象者とした。

2. 調査方法

1) 期間

2017年1月31日～2017年9月5日

2) データ収集方法

対象者の所属する施設に出向き、インタビューガイドを用いた30分から60分程度の半構成的インタビューを行った。インタビューに際して、インタビュー内容の録音、メモを取ることを許可を得た。

3) 調査内容

NPに対するインタビューでは「組織での活動の実態」、「患者に対する成果」、「職場環境」、「今後の課題」について自由に語るように依頼した。医師、看護部長、看護師に対するインタビューでは「NPの活動によるよい影響」、「NPの活動に対して困難と感じたこと」、「今後、期待する役割、働き方」について自由に語るように依頼した。

3. 分析方法

ICレコーダーで録音した内容を逐語録に起こした。記録したメモおよび逐語録より、文脈に沿って意味のまとまりごとに文節あるいは文章を切り出し要約し、類似したものをまとめてコード化し、データとした。コードは4つの職種毎に、意味内容の類似性に基づいて分類し、サブカテゴリーを作成し、サブカテゴリーの抽象度を高め、カテゴリーを作成した。カテゴリーは職種毎に、テーマに沿ってさらに3～4の大項目に分類した。分析の信頼性、妥当性を確保するため、指導教員のスーパーバイズを受けた。

4. 用語の定義

【高度急性期病院】

救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット等の高度急性期機能に該当する病棟をもつ病院。

【診療看護師（NP）】

一般社団法人日本NP教育大学院協議会が認定した大学院修士課程を修了し、同協議会が実施する資格認定試験に合格した者。

【看護師】

現在所属する病院で管理職についていない看護師。

5. 倫理的配慮

本研究は、「東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会」の承認を得て行った（院28-21）。対象病院の施設長と対象者個人には研究の概要、プライバシーの保護、研究参加の任意性と中断の自由および結果の公表の

仕方について、口頭で説明し、文書にて同意を得た。対象者の所属する病院の研究倫理審査を受審するよう要請された病院（2カ所）は、当該病院の研究倫理審査の承認を受けた後にインタビューを行った。

Ⅲ. 結果

1. 対象者の概要（表1）

1) 対象者の勤務する病院は、関東地方4、東北地方1、九州地方1の合計6病院であった。病床数は344床から648床であり、全ての施設は高度急性期機能に該当する病棟を有しており、一般病棟7対1入院基本料を算定していた。

2) NP：インタビュー対象者は5名で、大学院修士課程（NP教育課程）のクリティカル領域の修了生3名、プライマリ領域の修了生2名であった。各病院でのNPの所属部署は、看護部3名、診療部1名、診療看護部1名であり、NPとしての勤務年数は2年半から5年（平均：3年）であった。インタビューの平均時間は64分（50～82分）であった。

3) 医師：インタビュー対象者は5名であり、現在NPと協働している医師4名、NPの卒後研修に携わった医師1名であった。インタビューの平均時間は26分（13～41分）であった。

4) 看護部長：インタビュー対象者は5名であり、そのうち1名は看護部長が推薦した副看護部長であった。インタビューの平均時間は34分（22～52分）であった。

5) 看護師：インタビュー対象者は5名であり、看護師経験年数は5年から11年であった、NPとの協働期間は1年から5年であった。インタビューの平均時間は21分（18～26分）であった。

2. インタビュー内容の分析結果

2-1. NPのインタビューの分析結果（表2）

143コードが抽出され、48サブカテゴリー、13カテゴリーに分類した。カテゴリーの相互関係などを考え、本稿では1) 組織内における役割、2) NPの活動成果、3) NPの就労環境、4) 今後の課題の4つの項目に分けてインタビュー内容をまとめる。

カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを《 》, コードを「 」で記述する。

1) 組織内における役割

NPが回答した組織内での活動実態と役割を、【質の高いチーム医療の推進・提供】【看護師の育成】【活動成果の可視化】の3つのカテゴリーに集約した。

【質の高いチーム医療の推進・提供】ではNPは、「医師と看護師のことがわかるためチーム内の調整がスムーズに行える」「チーム内の橋渡しの存在」として《チームをマネジメントする》ことや、診断や治療などの医療的介入の決定をするなど《医師の業務をサポートする》役割を果たすことにより「医師は、本来やるべきことに専念でき、治療が円滑化する」、「患者の待ち時間が少なくなる」など、《患者の負担を軽減する》ことに繋がっていると認識していた。このために、NPは《医師が行うべき業務を見極める》ことの重要性を認識していた。

【看護師の育成】に関しては、これまでの看護経験とNPとして習得した知識・技術を生かし、「五感を使った観察力やアセスメント」など看護師の《患者のマネジメント能力の向上に繋げる》教育や《看護の質が向上するOn-the-Job Training（以下：OJT）を行う》中で《看護の楽しさややりがいを伝える》ことを心がけていた。また、《看護師のレベルに応じた勉強会を実施する》こともNPの役割と認識していた。さらに、NPが《活

表1 対象者の概要

A	B	C	D	E	F	
所在地	関東	関東	関東	関東	東北	九州
病床数	372床	560床	648床	344床	466床	550床
入院基本料	一般病棟7対1	一般病棟7対1	一般病棟7対1	一般病棟7対1	一般病棟7対1	一般病棟7対1
	NP		NP	NP	NP	NP
インタビュー協力者	医師 看護部長（代）	医師 看護部長		医師 看護部長 看護師	医師 看護部長 看護師	医師 看護部長 看護師
			看護師2名			

動成果を出す》《成果を数値化する》ことにより【活動成果の可視化】をしていくことが《患者や組織に貢献する》役割に繋がると認識していた。

2) NPの活動成果

NPの活動成果を、【チーム医療への貢献】【患者へのタイムリーな医療の提供】【看護の質の向上への貢献】【地域とのネットワークの推進】の4つのカテゴリーに集約した。

【チーム医療への貢献】では、NPは医師にはない《看護の視点を活かし継続性・個性のある治療的介入を行う》ことができ、《患者サイドに立って医師と協働する》「患者の最後の砦的な存在」として患者中心の活動をしていた。また、《チーム内を積極的に調整する》「職種間の橋渡しの役割」を果たし、《チームメンバー間の情報を治療に反映させる》といった多職種による【チーム医療への貢献】をしていた。【患者へのタイムリーな医療の提供】では、NPが「医師の思考過程を理解できるようになった」ことで、医師と協働する上で必要な準備や調整を行ない、《医師の診療が円滑に行えるようなサポート》をしていた。さらに、《高いアセスメント力を活用し、緊急度や重症度を判断する》、患者の《状況や自分の能力に合わせた実践をする》ことにより、医師がNPの「能力に合わせてある程度の判断を任せてくれるようになった」に示されるように、医師との信頼関係を築いていた。NPの活動を通して、《組織内での連携がスムーズになり円滑な治療的介入をする》ことに寄与していた。【看護の質の向上への貢献】では、看護師の《レディネスに合わせた個別的な教育をする》ことや「医師の指示の意図を看護師に説明する」NPの関わりを通して、看護師が《根拠に基づく個別的な看護を提供できる》ようになったことを実感していた。さらに、地域カンファレンスに参加し《地域の医療保健福祉関連のスタッフと協働する》ことで【地域とのネットワークの推進】に対する成果ももたらしていた。

3) NPの就労環境

NPの就労環境について、【活動しやすさ】【活動しにくさ】の2つのカテゴリーに集約した。

組織内でのNPの【活動しやすさ】として、《組織が変革を恐れずにNPを受け入れてくれた》ことにより、「上司が組織内の交渉などサポートしてくれる」、「医師がNPの働き方を前向きに考えてくれる」など《上司の

理解・サポートが得られる》ことがあげられた。また、チーム内のマネジメントの役割を果たしていく上で、多職種と《組織内での関係性が築けている》こともNPの【活動しやすさ】に影響していた。組織内での【活動しにくさ】については、組織においてNPとしての活動を開始するにあたり「NPの活動に対する規定がなく、ハード面も整っていなかった」ため、「組織を巻き込んで活動をする困難さ」があった。そのため、上司のサポートを得ながら、NPの《能力を発揮しやすいシステムを構築する》必要性をあげた。また、「職種によってNPの理解に対する個人差がある」ため《多職種の共通理解を得られにくい》ことによる【活動しにくさ】を感じていた。組織内での所属に関しては、《看護部に所属することでの困難さ》として、交代勤務など「看護師と同じ業務内容では効果的な患者管理を行いにくい」ことをあげた。一方で《診療部に所属することでの困難さ》として「病院長が上司であるため身近な相談者がいない」、「NPの役割や働き方が看護部に伝わりにくい」などをあげた。

4) 今後の課題

NPの今後の課題を、【医療の質の向上への貢献】【組織内での役割の確立】【NPとしての自律した実践】【NPの能力を発揮しやすい就労環境づくり】の4つのカテゴリーに集約した。

【医療の質の向上への貢献】では、NPは自己の実践に対して、《医師と看護師の思考を活かした実践を行う》ことや《チーム内でのリーダーシップを発揮する》ことが不十分であるとしていた。《医師や看護師との効果的な協働をする》ために《NPとしての実践能力を向上させる》継続的な学習の機会の必要性を今後の課題としてあげた。また、【組織内での役割の確立】や、【NPの能力を発揮しやすい就労環境づくり】のため、《組織内での役割を明確にする》ことおよびNPの《役割や活動の方向性に対する共通理解を得る》必要性を認識していた。【NPとしての自律した実践】では、NPの《役割を積極的に周知する》ために《患者や職員がNPを知るための広報を行う》活動や、《NPの独自性を確立する》ことを今後の課題としてあげた。

2-2. 医師のインタビューの分析結果（表3）

109コードが抽出され、32サブカテゴリー、11カテ

表2 NP：インタビュー分析結果

2-1) 組織内における役割

カテゴリー	サブカテゴリー
質の高いチーム医療の推進・提供	チームをマネジメントする 医師が行うべき業務を見極める 医師の業務をサポートする 患者の負担を軽減する 研修医を教育しサポートする
看護師の育成	看護師のレベルに応じた勉強会を実施する 看護の質が向上するOJTを行う 患者のマネジメント能力の向上に繋げる 看護の楽しさややりがいを伝える
活動成果の可視化	活動成果を出す 患者や組織に貢献する 成果を数値化する

2-2) NPの活動成果

カテゴリー	サブカテゴリー
チーム医療への貢献	チーム内を積極的に調整する チームメンバー間の情報を治療に反映させる 患者サイドに立って医師と協働する 看護の視点を活かし継続性・個別性のある治療的介入を行う
患者へのタイムリーな医療の提供	医師の診療が円滑に行えるようなサポートをする 患者が理解できるように説明した上で実践する 状況や自分の能力に合わせた実践をする 組織内での連携がスムーズになり円滑な治療的介入をする 高いアセスメント力を活用し、緊急度や重症度を判断する
看護の質の向上への貢献	レディネスに合わせた個別的な教育をする 患者に組織横断的に関わることで継続的な看護が行える 根拠に基づく個別的な看護を提供できる
地域とのネットワークの推進	地域の医療保健福祉関連のスタッフと協働する

ゴリーに分類した。カテゴリーの相互関係などを考え、本稿では1) NPの役割、2) NPへの役割期待、3) 今後の課題の3つの項目に分けてインタビュー内容をまとめる。

1) NPの役割

医師が回答したNPの役割を、【チーム医療の推進】【患者への質の高い医療の提供】【医師のパートナー】の3つのカテゴリーに集約した。

【チーム医療の推進】者として、NPは《医師と看護師の通訳をする》存在となり、両者の《コミュニケーションを促進させる》役割を果たしていた。またNPが医師と看護師を繋ぐことで、《看護師との視点の違いに

よるコンフリクトを解消する》ことができ、「看護師との関係性がよくなった」「看護師とのコミュニケーションが円滑になった」に示されるように医師と《看護師との協働を深める》成果をもたらしていた。【患者への質の高い医療の提供】をする役割として、NPは「患者の生活まで踏まえて全体を把握する」「看護の視点や臨床経験を活かした患者介入ができる」実践力を活かし、患者にとって「医師よりもベッドサイドに居る時間が多く安心感を与える」存在となっていることをあげた。医師に対して「必要な報告ができる」、「適切な疑義照会ができる」ため《患者へ安心・安全な医療を提供できる》ことにより【患者への質の高い医療の提供】に貢献してい

表2 NP：インタビュー分析結果

2-3) NPの就労環境

カテゴリー	サブカテゴリー
活動しやすさ	組織が変革を恐れずにNPを受け入れてくれた 組織内での関係性が築けている 上司の理解・サポートが得られる
活動しにくさ	多職種の共通理解を得られにくい 看護部に所属することでの困難さ 診療部に所属することでの困難さ 能力が発揮しやすいシステムを構築する 組織へ成果が伝わりにくい

2-4) 今後の課題

カテゴリー	サブカテゴリー
医療の質の向上への貢献	チーム内でのリーダーシップを発揮する 医師と看護師の思考を活かした実践を行う 医師や看護師との効果的な協働をする NPとしての実践能力を向上させる
組織での役割の確立	役割や活動の方向性に対する共通理解を得る 組織内での役割を明確にする 役割を積極的に周知する
NPとしての自律した実践	組織内で自律する 患者や職員がNPを知るための広報を行う 活動成果を可視化する NPの独自性を確立する
NPの能力を発揮しやすい就労環境づくり	NPとしての質を担保する 業務拡大のために増員を検討する 看護師のキャリアモデルになる 管理職とNPとしての実践を両立する

ることを評価していた。【医師のパートナー】として、NPは「医師と同じ視点で患者を看ってくれる存在」として《医師の視点や思考を持ち業務をサポートする》実践ができることやNPを《医師と看護師の中間的な立場でチームのマネジメントができる》、状況に応じて《ケアとケアの提供ができる》、《チームに欠かせない存在》として評価していた。

2) NPへの役割期待

NPに対する医師からの期待を、【チーム医療の質の向上】【医療の質の向上】【NPの実践力の向上】【状況に応じた役割発揮】の4つのカテゴリーに集約した。

【チーム医療の質の向上】のために、医師はNPに《多職種との効果的な協働》、チームメンバーの状況や個々のNPの能力に合わせた《柔軟な役割発揮》および《状

況に応じた業務拡大》を期待していた。また、【医療の質の向上】への貢献として、NPが《患者中心のマネジメント》をし、《患者への安心・安全な医療の提供》をすることをあげ、医師は【NPの実践力の向上】を期待していた。さらに、「積極性をもつ」ことや「継続して努力をする」などのNPとしての《態度》や、「自律した判断と処置ができる能力」、「患者の身体診察や問診を任せられる能力」といったNPに《必要な知識・能力を持っている》ことの必要性を指摘した。NPに期待する【状況に応じた役割発揮】に関して、《期待する診療行為》の拡大として、「患者や家族に検査結果を説明する」、「あらかじめ取得すべき同意書の説明」、エコーの実施など「患者の治療評価に必要な手技の実施」などをあげた。

3) 今後の課題

NPの今後の課題を、【組織内での役割の確立】【効果的な卒後教育を行うための体制づくり】【医師とNPのパートナーシップの確立】【NPとしてのアイデンティティの確立】の4つのカテゴリーに集約した。

今後、NPが【組織内での役割の確立】をしていくために、《役割を明確にする》および《NPに対する共通理解を得る》ように継続的な活動を行っていく必要があることを指摘した。さらに、より効果的な役割発揮ができるように《NPを増員》し、《活動成果の可視化をする》ことで組織内での認知度をあげ、組織に貢献していくことを課題としてあげた。【効果的な卒後教育を行うための体制づくり】としては、医師は自身の初期研修の経験からNPの《卒後研修の必要性》や、《継続的な学習の支援をする》必要性をあげている一方で、「NPの学習のニーズがわからない」といった《NPを指導する上での共通理解ができていない》現状を指摘した。また、【医師とNPのパートナーシップの確立】をしていくには、NPが、《個々の能力や状況に合わせた役割の分担をする》ことや《研修医との効果的な協働をする》必要性をあげた。さらに、【NPとしてのアイデンティティの確立】、《NPの独自性を明確にする》ために、NPが《自律した実践をする》ことを通して「医師のマンパワーでなくNPとしての活躍」をし、組織内で《存在意義を確立する》ことを今後のNPの課題としてあげた。

2-3. 看護部長のインタビューの分析結果（表4）

87コードが抽出され、29サブカテゴリー、11カテゴリーに分類した。カテゴリーの相互関係などを考え、本稿では1) NPの役割、2) NPへの役割期待、3) 今後の課題の3つの項目に分けてインタビュー内容をまとめる。

1) NPの役割

看護部長が回答したNPの役割を、【医師との協働による医療の質の向上】【看護師に対する効果的なサポート】【実践を通じたNPの役割の理解促進】【自施設の高度急性期病院としての理念に沿う存在】の4つのカテゴリーに集約した。

【医師との協働による医療の質の向上】では、NPは「臨床推論能力を活かして患者の状態を明確に言語化で

きる」ため、医師と《患者の状態を的確に把握できる》ことで、チームとして《安全な患者管理ができる》成果をもたらしていることをあげた。【看護師に対する効果的なサポート】として「フィジカルアセスメントなど現場で活用できる教育をする」、看護師の《教育者としてサポートする》ことや、「医師が不在時の調整や看護業務をサポート」する役割を担い、《看護師の負担が軽減する》ことに貢献していることをあげた。また、NPは「モチベーションが高いため看護師の起爆剤となる」「キャリアアップの選択肢になる」の回答に示されるように、看護師の《ロールモデルとなる》役割を果たしていることをあげた。【実践を通じたNPの役割の理解促進】では、NPは看護師との《協働により信頼関係を確立する》ことで組織に受け入れられ、《看護師のNPに対する認識の前向きな変化をもたらす》ことにより、NPの役割に対する組織内の理解促進に繋がっていることをあげた。さらに、NPがチーム内で調整能力を発揮することで《高度な医療の提供が行える》ようになり、【自施設の高度急性期病院としての理念に沿う存在】としての役割も果たしており、他の施設に対して「NPが組織に居ることでの利点を提言できる」ことをあげた。

2) NPへの役割期待

NPに対する看護部長からの期待を、【質の高い医療と患者満足への貢献】【専門性を活かした質の高い教育】【看護スペシャリストとしてのロールモデル】の3つのカテゴリーに集約した。

【質の高い医療と患者満足への貢献】のため、NPは「患者を総合的に捉える力」を発揮し、《質の高い患者マネジメントを行う》のみならず、医師との効果的な協働により《患者へ早期の治療的介入ができる》ことを期待していた。加えて、《NPの知識を活かして、認定看護師や専門看護師と協働する》ことで《看護の質を向上させる》ことも期待していた。また、【専門性を活かした質の高い教育】者として《個々のNPの特性に応じた役割を発揮する》ことを通して、《高度な実践力を発揮する》ことおよび【看護スペシャリストとしてのロールモデル】として、「看護の視点や看護の強みを活かした実践」をする《新たなスペシャリストとしての役割を確立する》ことを望んでいた。

3) 今後の課題

NPの今後の課題を、【患者・社会への貢献】【組織内

表3 医師：インタビュー分析結果

3-1) NPの役割

カテゴリー	サブカテゴリー
チーム医療の推進	医師と看護師の通訳をする コミュニケーションを促進させる 看護師との視点の違いによるコンフリクトを解消する 看護師との協働を深める
患者への質の高い医療の提供	看護の視点や臨床経験を活かした患者介入ができる 患者へ安心・安全な医療を提供できる
医師のパートナー	医師と看護師の中間的な立場でチームのマネジメントができる ケアとキュアの提供ができる 医師の視点や思考を持ち業務をサポートする チームに欠かせない存在 研修医の実践モデル

3-2) NPへの役割期待

カテゴリー	サブカテゴリー
チーム医療の質の向上	多職種との効果的な協働 柔軟な役割発揮 状況に応じた業務拡大
医療の質の向上	患者中心のマネジメント 患者への安心・安全な医療の提供
NPの実践力の向上	態度 必要な知識・能力を持っている
状況に応じた役割発揮	期待する診療行為

3-3) 今後の課題

カテゴリー	サブカテゴリー
組織内での役割の確立	役割を明確にする NPに対する共通理解を得る NPを増員する 活動成果の可視化をする
効果的な卒後教育を行うための体制づくり	卒後研修の必要性 継続的な学習の支援をする NPを指導する上での共通理解が出来ていない
医師とNPのパートナーシップの確立	個々の能力や状況に合わせた役割の分担をする 研修医との効果的な協働をする 指導医としてのジレンマ
NPとしてのアイデンティティの確立	NPの独自性を明確にする 自律した実践をする 存在意義を確立する

での役割の確立】【自律的な役割発揮】【NPを育成するための組織づくり】の4つのカテゴリーに集約した。

看護部長は【患者・社会への貢献】のために、NPが「医師の補助ではなく患者のために成果を出す」実践を

し、《患者のための成果を可視化する》、《救急医療などへ貢献する》必要があることをあげた。そのためにも、【組織内での役割の確立】が不可欠であり「特定行為ができる看護師とNPの役割の違いを周知する」など《医

療スタッフや患者の認知度を向上させる》ための関わりを積極的に行い、《組織の共通理解を得る》と同時に《組織内での存在意義を確立していく》ことを課題としてあげた。また、【自律的な役割発揮】としてNP自身が「どのような役割を発揮していきたいかを明確にする」、「管理者と働き方や方向性を共有」する機会を設け

るなど《自律した実践を行う》こともNPに必要な能力と指摘した。【NPを育成するための組織づくり】では今後NPが役割を発揮するにあたり、《NPの質の向上》や《教育・管理体制の整備》などを、管理者としての課題と認識していた。

表4 看護部長：インタビュー分析結果

4-1) NPの役割

カテゴリー	サブカテゴリー
医師との協働による医療の質の向上	患者状態を的確に把握できる 安全な患者管理ができる
看護師に対する効果的なサポート	教育者としてサポートする ロールモデルとなる 看護師の負担が軽減する
実践を通じたNPの役割の理解促進	看護師のNPに対する認識の前向きな変化をもたらす 協働により信頼関係を確立する 医師の理解を得る
自施設の高度急性期病院としての理念に沿う存在	組織としてのアピールとなる 高度な医療の提供が行える

4-2) NPへの役割期待

カテゴリー	サブカテゴリー
質の高い医療と患者満足への貢献	チーム医療への貢献をする NPの知識を活かして認定看護師や専門看護師と協働する 質の高い患者マネジメントを行う 患者への早期の治療的介入ができる
専門性を活かした質の高い教育	看護の質を向上させる 研究の推進
看護スペシャリストとしてのロールモデル	新たなスペシャリストとしての役割を確立する 個々のNPの特性に応じた役割を発揮する 高度な実践力を発揮する

4-3) 今後の課題

カテゴリー	サブカテゴリー
患者・社会への貢献	患者のための成果を可視化する 救急医療などへ貢献する
組織内での役割の確立	医療スタッフや患者の認知度を向上させる 組織の共通理解を得る 自律した実践を行う
自律的な役割発揮	組織内での存在意義を確立していく NPとしての目標を組織で共有する
NPを育成するための組織づくり	NPの質の向上 教育・管理体制の整備 キャリアアップ

2-4. 看護師のインタビューの分析結果（表5）

72コードが抽出され、28サブカテゴリー、10カテゴリーに分類した。カテゴリーの相互関係などを考え、本稿では1) NPの役割、2) NPへの役割期待、3) 今後の課題の3つの項目に分けてインタビュー内容をまとめる。

1) NPの役割

看護師が回答したNPの役割を、【チームの一員としての高度な実践者】【看護実践力向上のための教育者】【身近な相談者】の3つのカテゴリーに集約した。

【チームの一員としての高度な実践者】として、NPは医師と看護師の視点を持ち「看護師の意思を汲み取り代弁してくれる」《医師との架け橋役となりチームワークの質を高める》実践を行っていることをあげた。また、「一部の医行為が出来る」ことで《患者にタイムリーな医療が提供できる》ため、患者のみならず《看護師の負担が軽減する》成果をもたらしていることをあげた。【看護実践力向上のための教育者】として、NPは「幅広い知識を活かした教育ができる」強みを活かし、看護師に《ケアとキュアの視点を持ち看護ケアについて共に考える》関わりや《患者管理に必要な知識をわかりやすく教える》ことで、看護師の《学習意欲が高まる効果的な教育をする》実践を行っていることをあげた。さらに【身近な相談者】として、NPは看護実践の経験を活かし「共感的な態度で看護師の質問の意図を汲み取ることができる」ため、《看護師の先輩として気持ちを理解してくれる》存在であり、患者に係る《治療や病態について医師よりも相談しやすい》《ニーズに的確に対応してくれる》【身近な相談者】としての役割を果たしていることをあげた。

2) NPへの役割期待

NPに対する看護師からの期待を、【医師と看護師の視点を活かした実践】【状況に応じた業務サポート】【看護師の実践力向上のための教育】の3つのカテゴリーに集約した。

看護師が期待する【医師と看護師の視点を活かした実践】としては、「看護師のカンファレンスへの参加」を通し、NPが《医師サイドの方針を踏まえた提言を行う》など《医師の思考をチーム間で共有する》役割を担うことを期待していた。【状況に応じた業務サポート】として、現在は医師が行っている「処方や創傷処置」などを

NPが行い、チームの一員として《治療が円滑化するためのサポートをする》のみならず、マンパワーが不足している際に、状況に応じて《看護業務のサポートをする》ことをあげた。また、【看護師の実践力向上のための教育】者として「わかりやすい勉強会の開催」など《看護師のレベルに合わせた教育》を行い、《看護師の育成をサポートする》活動を期待していた。

3) 今後の課題

NPの今後の課題を、【組織内での役割の確立】【組織内での活動の可視化】【医療スタッフ・患者への認知度の向上】【キャリアモデルとしての存在】の4つのカテゴリーに集約した。

【組織内での役割の確立】では、NPの《業務範囲が明確でない》、《組織での共通認識ができていない》ため、《効果的な協働ができていない》現状を指摘した。さらに【組織内での活動の可視化】では、NP《個々の医行為の自律度が明確でない》こと、《活動計画が明確でない》および《実際の活動がみえにくい》ことをあげた。また、【医療スタッフ・患者への認知度の向上】では、NPは《患者や医療者の認知度が低く、馴染みがない》ため《初めて協働する存在として戸惑う》と指摘した。その要因として《修了生の人数が少ない》こと、《NPの役割を知る機会が少ない》ことをあげた。そして、看護師の【キャリアモデルとしての存在】となるために、《NPの専門性を確立する》活動を行うことを今後の課題としてあげた。

VII. 考察

NP、医師、看護部長、看護師のインタビューを通して得られた結果をもとに、1. 高度急性期病院におけるNPの役割、2. チーム医療のさらなる推進役としてのNPの存在、3. NPの役割を発揮した活動を続けるための課題の3つの視点から考察する。

1. 高度急性期病院におけるNPの役割について

医師、看護部長、看護師からのNPに期待する役割として共通してあげられたことはチーム医療の推進および医療の質の向上であった。

NPは患者、家族、看護師にとって安心を与えることができる存在として高い評価を得ていることが報告され

表5 看護師：インタビュー分析結果

5-1) NPの役割

カテゴリー	サブカテゴリー
チームの一員としての高度な実践者	医師との架け橋役となりチームワークの質を高める 患者にタイムリーな医療が提供できる 看護師の負担が軽減する
看護実践力の向上のための教育者	ケアとキューアの視点を持ち看護ケアについて共に考える 患者管理に必要な知識をわかりやすく教える 学習意欲が高まる効果的な教育をする
身近な相談者	看護の先輩として気持ちを理解してくれる ニーズに的確に対応してくれる 治療や病態について医師よりも相談しやすい

5-2) NPへの役割期待

カテゴリー	サブカテゴリー
医師と看護師の視点を活かした実践	医師サイドの方針を踏まえた提言を行う 医師の思考をチーム間で共有する
状況に応じた業務サポート	治療が円滑化するためのサポートをする 看護業務のサポートをする
看護師の実践力向上のための教育	看護師のレベルに合わせた教育を行う 看護師の育成をサポートする

5-3) 今後の課題

カテゴリー	サブカテゴリー
組織内での役割の確立	業務範囲が明確でない 組織での共通認識ができていない 効果的な協働ができていない
組織内での活動の可視化	個々の医行為の自律度が明確でない 実際の活動が見えにくい 活動計画が明確でない
医療スタッフ・患者への認知度の向上	患者や医療者の認知度が低く、馴染みがない NPの役割を知る機会が少ない 初めて協働する存在として戸惑う 修了生の人数が少ない
キャリアモデルとしての存在	NPの専門性を確立する 自己のキャリアとしては現状では考えない 労務管理に不安がある

ており¹⁰⁾、今回の調査からも医療チームの職種間の業務状況や患者の状態に応じた臨機応変な実践を通して、①チーム医療の多職種間の連携・調整の推進、②患者へのタイムリーな医療の提供、③看護の質の向上に寄与していることを評価していた。NPは、組織横断的な活動や、専門看護師や認定看護師との協働を通して、複数の疾患や多様なニーズを持つ患者に対して、臨床で培った

看護師としての知識・経験を基盤とし、大学院教育や卒後研修で養った高度なアセスメント力や治療のスキルを活かした全人的な質の高い医療を提供し、患者満足度を高める役割を果たすことができると考える。

医師はNPを、医学的思考と看護の思考を持ち両者の中間的な立場で、看護師との効果的な協働に繋げる“通訳者”でもあり、患者を全人的に捉え、患者の個別性に

合わせた安心・安全な質の高い医療を提供できる“パートナー”であると評価していた。看護師は、NPを看護実践能力に加え、医学的な思考を持ちながら医師と協働して活動している“医師の役割に近い存在”と認識しており、NPの存在により患者に対する治療方針等を看護師としても共有できるようになったと評価していた。また、看護師にとってNPは“高度な実践、教育、相談者”としての役割を果たしており、実践・指導・教育を役割としている認定看護師¹¹⁾と類似した役割を持つ者として受け止められていた。看護部長は、NPが医師と協働することで、安全な医療の提供ができるようになり、看護師に対する教育者として看護の質の向上に貢献していると評価し、「療養上の世話」「診療の補助業務」¹²⁾の視点のバランスを意識した実践を行い、さらに質の高い医療と患者満足度の向上へ貢献していくことを期待していた。

先行研究では、高度に専門化された複数の医療専門職が協働する多職種横断チームにおいて、NPの存在がチームとしての機能を高めることが報告されている¹³⁾。高度急性期病院においてNPは、医師と看護師の“橋渡し”役として互いの情報を共有し、看護師の“代弁者”、医師の“通訳者”、“多職種間の連携・調整役”としてチームのマネジメントを行うことを通して、実質的なチーム医療の実現・推進に貢献することができるものと考えられる。また、NPは治療をする側の医師と療養上の世話および診療の補助行為を実施する側の看護師の両者の思考・立場を理解できるため、患者に対する症状マネジメントが適切に実行できると考える。そして、看護のマンパワーが不足している際の業務のサポートや、医師が不在時の診療行為の一部の実施等をNPが担うことで、医師、看護師の労務負担の軽減にも貢献できる。さらに、NPの思考力・判断力、医療的な知識・技術と看護経験で培った共感的な態度および看護師のレディネスに合わせた指導をする教育者としてのスキルを活用して、看護師に対する効果的なOJT教育ができ、看護の質の向上に寄与できる。高度急性期病院において、先行研究でも報告されているように、NPがチーム医療を推進し医療の質向上に貢献していくキーパーソンとしての役割を果たしていることが示唆された。

2. チーム医療のさらなる推進に向けてのNPの存在に

ついて

高度急性期病院は、急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて診療密度が特に高い医療を提供する機能を担っており、協働する職種がそれぞれの専門的なスキルを発揮し、パートナーシップの基で患者のQOL向上に寄与する効果的なチーム医療が必要とされる。しかし、チーム医療の必要性が強調されているが、多忙な医療現場では、チーム医療の基本的な要素である多職種間のコミュニケーション、コラボレーションを効果的に機能させる難しさを実感している。今回の調査で、NPが組織の壁を越え、組織横断的に関わり、職種間の“橋渡し”“通訳者”“代弁者”の役割を果たしていることが明らかとなり、NPの活動が、患者も取込んだチーム医療を実質的に推進していくものと考えられる。そのためにもNPは自己研鑽を重ね、コミュニケーション・コラボレーションスキルを磨き、患者からも医療スタッフからも信頼されるチーム医療のキーパーソンとなる実践を行っていく必要がある。

3. NPの役割を発揮していくための課題について

今後の課題として、NP、医師、看護部長、看護師は、NPの役割や活動についての組織としての考え方・ビジョンが不明確であること、NPに対する組織内での認知度が低いことを指摘している。組織内でのNPの存在と役割の認知度を上げていくためには、日本NP教育大学院協議会で定義しているNPの役割をNP自身が再認識し、NPとしての活動を通して、自分が所属している足下の組織から、認知度の向上に取り組んでいく努力が必要である。インタビューに協力が得られた医師や看護部長はNPの立場を“医師と看護師との橋渡しの役割”“医師と看護師の通訳者”“医師のパートナー”と評価していること、看護師は“高度な実践者”“身近な相談者”として認めていることを前向きに受け止め、NPとしての能力向上の研鑽を続けながら自律的に活動しやすい就労環境を自らの努力で作っていく必要がある。組織内でNPがチーム医療のキーパーソンとして活動していくシステムを構築していく上では、看護部長の理解を得ていくことが不可欠であることも今回の調査で明らかとなった。組織内での位置づけの明確化や、NPとしての役割を発揮できる配置・勤務体制等の就労環境の整備などの協力を求めていくためには、NPの活動成果の可視

化を図り、積極的な情報提供していくことがNPに求められていると考える。

VIII. 本研究の限界

本研究は、すでにNPが勤務している高度急性期病院のNP、医師、看護部長、看護師各5名ずつの意見等であり、NPへの理解が高い医療スタッフの評価である。この研究成果を一般化させるには限界がある。しかし、日本においてNPの実践活動が始まって約5年経過した時点でのNPの活動実践と医師、看護部長、看護師のNPの活動評価と、NPへの期待についてまとめることはできた。

IX. 結論

高度急性期病院のNP、医師、看護部長、看護師を対象にしたインタビューの結果、NPは、①職種間の調整を図りチーム医療の推進役、②患者へのタイムリーな医療の提供、③看護の質の向上への貢献の役割を果たしていることが評価（NP自身の自己評価、3者の他者評価）され、今後さらなる活動が期待されていることが明らかになった。今後は、管理者・医療スタッフの理解、組織内での認知を得ながら、患者のニーズ、組織のニーズに対応した自律した実践およびその活動成果の可視化を通して、チーム医療におけるキーパーソンとしてのさらなるスキルアップが期待されている。

X. 謝辞

本研究を作成するにあたり、インタビューに同意とご協力頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

XI. その他

本研究遂行において利益相反は存在しない
本文執筆に使用したソフトウェア
Microsoft® Word 2013 (15.0.4937.1000)

文献リスト

- 1) 厚生労働省ホームページ：病床機能報告 報告マニュアル1（医療機能の選択についての考え方について）
https://www.mhlw.go.jp/content/00_h30_manuall.pdf (2020.4.28)
- 2) 厚生労働省ホームページ：平成26年（2014）患者調査の概況
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/14/> (2020.04.28)
- 3) 篠田道子：フランスにおける医師と看護師の役割分担～看護師「固有の役割」を中心に～. 海外社会保障研究, spring, 174 : 30-41, 2011.
- 4) 瓜田純久, 斎藤隆弘, 鈴木健志, 他：大学付属病院における総合診療の確立を目指して. 日本病院総合診療医学会雑誌, 10 (1) : 7-11, 2016.
- 5) 一般社団法人日本NP教育大学院協議会：診療看護師（NP）について
<https://www.jonpf.jp/requests/statements.html> (2020.08.11)
- 6) 厚生労働省ホームページ：チーム医療の推進について（チーム医療の推進に関する検討会 報告書）
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/05/dl/s0512-6g.pdf> (2020.04.28)
- 7) 穴見翠：「特定行為に係る看護師の研修制度」の現状と今後に向けた課題. 看護管理, 27 (11) : 880-886, 2017.
- 8) 塩月成則, 藤内美保, 藤本響子, 他：プライマリケア領域における周手術期アウトカム, 患者満足度, 看護師からの評価 診療看護師（NP）を導入して5年目の事例. 看護研究, 48 (5) : 420-425, 2015.
- 9) 飯野雅子, 鈴木英之：消化器外科病棟における診療看護師（NP）の役割と成果. 看護研究, 48 (5) : 440-448, 2015.
- 10) 本田和也：特定行為の実施に係る倫理的判断と看護実践の評価, 今後の展望. 看護管理, 27 (11) : 908-914, 2017.
- 11) 日本看護協会ホームページ：資格認定制度 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 認定看護

師とは

<http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn> (2020.04.28)

- 12) 厚生労働省ホームページ：保健師助産師看護師法
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2005/04/>

s0428-7f.html (2020.04.28)

- 13) 平田直子, 菊野隆明：チーム医療「急性期早期離床チーム」における診療看護師 (NP) の役割. 看護研究, 48 (5) : 436-439, 2015.

Abstract

【Objective】

The activities and roles of NPs in hospitals were investigated by a survey of semi-structured interviews of NPs, doctors, nursing directors and nurses.

【Methods】

Subjects of the interviews were 5 persons in each staff in 6 hospitals. The analysis of interview records was conducted by the qualitative method.

【Results】

NPs have recognized that they have “produced timely medical treatments for patients” and they worked as educators and advisors for medical staffs. The NPs recognized that their role in the hospitals was as coordinators in a collaborative approach to medicine. The doctors evaluated the NPs as “their partners”. They also pointed out the need for “the NPs to skill up” and for “the identity of NPs to be established” in hospitals. Nursing directors evaluated that the NPs contributed to the “improvement of the quality of medical care while trying to cooperate with doctors” in the hospitals. They also pointed out the need for NPs to learn qualitative education and to learn “autonomous attitudes”. Staff nurses have recognized that the NPs have acted from the perspective of doctors and nurses. For the nurses, the NPs were “familiar advisors”, who it was easy to talk to about everything.

【Conclusions】

Each medical staff expected the NPs to promote qualitative medical care in their hospital. It is necessary to clarify the roles and positions of NPs in medical institutes in order to work autonomously for the improvement of the QOL of patients.

Key Words : Nurse Practitioner (NP), Roles and Activities, Expectation